

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

受 理 番 号	学 校	教 科	種 目	学 年
28-171	高等学校	外国語	英語表現 I	
発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教 科 書 名		
220 スクリ	英 I・344	PRODUCER English Expression I		

1. 編修の基本方針

(1) 高校生の現状

教育基本法が第二条に掲げる目標の具現化として、現代日本において高校生を取り巻く状況を前提に考察した。技術革新による PC (パーソナルコンピュータ) の拡大、さらに携帯電話などのモバイル機器の大衆化に伴うビデオ・ゲームの氾濫、VR (Virtual Reality) の高性能化など、実際の事物・人間を凌駕していることは間違いない。その中で、人と人との関係はますます希薄になっており、「個」の中に埋没して接触を避ける傾向もある。

(2) コミュニケーション・ツールとしての英語

このような状況を前提に、英語を使ったコミュニケーションの場を具体的に想定することが必要と考えた。日本語ではなく、英語授業という学習の場をコミュニケーションの場として考えたわけである。すなわち、日常の中に英語を用いるという非日常を導入し、人との触れ合いを再現することで人間関係の復活を意図した。これは従来の英会話とは一線を画する。従来は特定の場面や状況を設定して、その設定の中である人物の役割を演じることになる。しかし、本書では誰かを演じるのではなく、高校生自身が自分自身 (本人) として自分の意見や考えを話すことになる。これによってコミュニケーションが生まれる。

(3) テーマの設定

高校生の生活感覚を考え、身近な題材 (テーマ) を精選して、実生活と結び付けて自然に授業に参加できるように配慮した。まず①自分 (私) から始まり、②学校生活、③家族へと発展させ、④食べ物、⑤健康を経て、⑥観光・文化、⑦外国旅行へと、「自己」→「生活環境」→「自己を豊かにする興味関心」→「実践的に英語を使用する場面」へと、発展的な流れで配置した。本書を使用する高校生は、知らず知らずのうちに自らの視野・視点が「個」から「周辺」そして「全体」へと広がっていくことを学ぶことにな

る。同時に、英語をコミュニケーション・ツールとしてとらえ、状況に応じて柔軟に使えること、すなわち英語における4技能を自在に駆使できる総合的な英語力の定着を目指した。普段の生活の中で、相手が言ったことを的確に理解し、自分の考えを明確に相手に伝えるという最も基本的な英語力が求められる中で、例文の暗記のみに留まらず、実践的な使用を可能な限り追求した。さらに、題材には「幅広い知識と教養」「職業及び生活との関連」「男女の平等」「自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度」「伝統と文化を尊重」などの教育基本法が盛り込まれており、各 Unit の題材を的確に理解することで具現化するものと確信する。

留意点

英語学習、特に「英語表現Ⅰ」の学習に必要なことは、生徒をできるだけ積極的に授業に参加させる点にある。本書においては、可能な限りコミュニケーションの機会を提供する中で、①生徒の興味関心に基づいた題材の設定から、②必要な語彙・表現の習得をふまえ、実践的な Listening と Speaking、さらに Writing や Discussion の場面を設定した。具体的には、Speaking Activities はコミュニケーションの模擬体験の場として、毎回プリント(hand-out)を用意し、pair または group work で、そのプリントに記入しながら活動することができるように工夫を凝らした。さらに Speaking 活動として会話や Discussion のように複数で行う形式に加えて、プレゼンテーションのような個人が中心となる発表形式も取り入れた。Writing 活動としては、自分の考えを書くだけでなく Discussion の内容をまとめたりするなど多様な形を用意した。

また、正確な英語を使用するための文法の基本知識を示した練習問題を用意した。練習問題では、各 Unit でのトピックで使われる語彙を使い反復で定着を図っただけでなく、具体的な運用を求める問題を準備した。

さらに、日常的な英語に触れる例として各 Unit の内容に関連した映画の一場面を教材として取り入れた。各 Unit の最後に配置した Clapperboard で 13 本の、少し長い場面を鑑賞する Watch and Discuss で 2 本の映画を取り上げた。映画の中で普通のスピードで話される英語に接することができるだけでなく、そこに描かれる外国の生活や文化などを学べるうえに、「家族」「知的障がい」「他とのかわり」等の映画のテーマについて考え、話し合い、自分の考えをまとめることが可能となっている。

2. 対照表

図書の構成・内容	教育基本法 の内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
Unit 5 Free Time and Frequency (自由時間と過ごし方) Unit 6 Movies and Entertainment (映画と娯楽) Unit 11 Sightseeing and Culture (観光と文化) Unit 12 Destinations and Directions (行先と方向)	第1号	幅広い知識や教養を身につけるための映画や観光を通して、豊かな情操と道徳心を培う外国の文化に接する場面を設定した。	42-43 ページ [Unit 5] 52-53 ページ 58-59 ページ [Unit 6] 94-95 ページ 100-101 ページ [Unit 11] 102-103 ページ 108-109 ページ [Unit 12]
①Unit 1 Introductions and Questions (紹介と質問) ②Unit 3 Schools and Clubs (学校とクラブ) ③Unit 8 Shopping and Restaurants (買い物とレストラン) ④< Watch and Discuss > Movie Two I Am Sam.	第2号	①人間関係を育成する自己紹介と相手を知るためのコミュニケーション活動を設けた。 ②学校生活を豊かにする学習やクラブ活動を通して将来の夢を考える。 ③買い物や外食場所での表現を学ぶことで勤労を重んじる姿勢を養う。 ④知的障がいを持つ父に深い愛情を注ぐ娘のやさしさに個人の価値を尊重することを見出す。	①10-11 ページ 16-17 ページ [Unit 1] ②27 ページ [Unit 3] ③69 ページ [Unit 8] ④92-93 ページ Watch and Discuss 映画 I Am Sam
< Watch and Discuss > Movie One Hugo	第3号	映画の一場面を鑑賞する。主人公の男の子と女の子が協力して真実と幸福を追い求める姿に主体的な社会の参加を学ぶ。	50-51 ページ Watch and Discuss 映画 Hugo
①Unit 4 Family and Relative (家族と親類) Unit 7 Food and Drink (食べ物と飲み物) Unit 9 Health and Fitness (健康とフィットネス) ②Unit 10 Weather and Climate (天気と気候)	第4号	①食べ物や飲み物、家族と親戚、健康などを考えることで生命を尊ぶ姿勢を学ぶ。 ②天候や気候を学ぶことで環境保全を考える。	①34-35 ページ 40-41 ページ [Unit 4] 60-61 ページ 66-67 ページ [Unit 7] 76-77 ページ 82-83 ページ [Unit 9] ②84-85 ページ、 90-91 ページ [Unit 10]

Unit 5 Free Time and Frequency (自由時間と過ごし方)	第5号	余暇を充実させることを踏まえ、映画や娯楽、観光を通して異文化を学ぶことは伝統を尊ぶ態度を育成することにつながる。外国への入出国は国際社会を学習する第一歩となるであろう。	42-43 ページ [Unit 5]
Unit 6 Movies and Entertainment (映画と娯楽)			52-53 ページ 58-59 ページ [Unit 6]
Unit 11 Sightseeing and Culture (観光と文化)			94-95 ページ 100-101 ページ [Unit 11]
Unit 13 Departure and Arrivals (出発と到着)			110-111 ページ [Unit 13]

3. 上記の記載事項意外に特に意を用いた点や特色

英語の教科書としてはおそらく初めての A4 サイズを採用し、現代の高校生の美的センスを考慮し、大胆なレイアウト、色彩豊かなイラストを多用した。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

受 理 番 号	学 校	教 科	種 目	学 年
28-171	高等学校	外国語	英語表現 I	
発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教 科 書 名		
220 スクリ	英 I 344	PRODUCER English Expression I		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

1. コミュニケーション・ツールとしての英語

英語をコミュニケーションの道具として積極的に使うためには、①英語で行われる会話に頻出する話題に通じていること、②自身の英語力（語彙・発音・文法など）に対する自信を持つこと、そのために、③英語を話さなくてはならない状況を作り出すこと、④そして、自分たちの英語による活動が正当に評価され、それをその後の英語力の向上につなげることなどが挙げられる。本書には、これらのプロセスを効率的に進めるための4つの特徴がある。

第1の特徴は、まず高校生に身近な話題を取り上げ、Unit全体にわたってその話題に関連させた語彙・表現を用いている点である。自己紹介から始め、学校生活や家族、趣味や余暇と、自然に英語でコミュニケーションを図りたくなるようなテーマが設定してある。次の段階で、映画・食物・買い物・健康のような生徒の生活と結びついたテーマに移行し、最終的には、観光・文化、外国旅行へと発展する。Unit内で種々の言語活動に取り組む中で、そのテーマに関連した語彙や表現が習得できるよう構成されている。

第2の特徴として、生徒みずから英語を話し、英語で書いたり発表したりする力を伸ばすことを段階的にめざしている。まず、各Unit冒頭のWarm upで、該当Unitのテーマに関連する語彙を英語を使って導入する。単に語彙を羅列するのではなく、いろいろな活動を取り入れながら、語彙を相互の関連性も意識しながら学習させる。次に、テーマに沿ったListening Activitiesにおいてテーマや語彙や表現方法に習熟し、さらにはそこで得た知識や技術を基盤に、積極的に生徒同士でSpeaking Activitiesに取り組むことをめざす。その後、基本的な文法事項をGrammarセクションで復習し、いろいろなExerciseをもとに知識を定着させ、コミュニケーションを正確に円滑にはかるための基本を身に着けさせる。Writingの活動に関しては、Grammar Exerciseから条件付きのWriting Exercisesへと発展させ、最終的には、そのユニットのテーマに関連する課題に即した自由英作文に取り組むことで、主体的に英語で書く能力を習得させる。

次にOutput活動として、Speaking and Writing Activitiesが用意されている。まず自分自身の考えを書いて発言したり、多様な意見・考えを交えてまとめて発表するという流れの中で、その段階までに学んだ語彙・表現・文法などを駆使して、PresentationやDiscussionに必要な形式や表現を学びながら発表していくことが中心となっている。この活動は各Unitに配置され、最初は誓約が多い中での活動から始め、Unitが進むにつれて徐々に活動の自由度

を高めた。最後となる Unit13 では外国留学について生徒自身に考えさせるなど思考力も要する活動を設定した。

第3の特徴として、トピックを中心とした語彙の精選があげられる。各 Unit のテーマに沿った語句・表現を可能な限り提示し、何度も繰り返し触れることで定着を図る。Listening や Speaking の内容、例文や練習問題もすべて一貫したテーマに基づいて作られているため、最初の導入部分である Warm up で使用された語句・表現を、次の Listening で耳にし、Speaking Activity で実際に活用するという作業を経た後、Grammar セクションでも主としてその語彙を用い、Exercise (練習問題) でもその語彙に多面的に触れることをめざす。最終的には、Writing 作業においてそれらの語彙を productive に使えるようにする。

第4の特徴として、生徒の表現活動(output)としての Speaking Activities と Writing Activities を重視した。前半の Unit では Presentation を、後半 Unit では Discussion をメインに置き、生徒間の Discussion をまとめる形での Writing の活動に進むことを目指した。

第5の特徴は、各 Unit の最後に映画の一場面を取り入れたことである。映画が一瞬のうちには生徒を映画の世界に引きずり込む効果は無視できない。授業で映像を見せる効果は、まさしく「百聞は一見に如かず」であり、それがストーリーを持った映画なら一層大きな効果が期待できる。映画では、場面設定(状況)が明確であるため会話の内容が理解しやすいし、普通のスピードで話される英語を聴き取る練習にもなる。さらに発展的に、ロールプレイをさせながら、実際の会話の練習を積むことで、英語によるコミュニケーションの技術を学ぶことが可能になる。また、各 Unit で取り上げたテーマに沿った一場面を選択しているため、そのテーマについてより理解が深まることも期待される。

2. 各 Unit の構成と特色

各 Unit は6つの部分で構成されている。

(1) Warm up

導入部分である。Unit 全体のトピックを提示するとともに、題材理解に関わる語彙を示した。単に語彙を羅列するだけでなく、様々な Activities を設定することで、英語を使いながら飽きずに語彙学習を続けることができる。

(2) Listening

Unit の題材に関して、英文の音声を聞いて質問に答える。同じ素材に対して易しい Task One とやや難しい Task Two で構成されているので自然な流れで学習できる。実際の英語を聞く中でテーマに沿った英語表現に習熟し、次の Speaking Activities への基礎を養うことを意図している。

(3) Speaking Activities

生徒同士のコミュニケーションとして重要な位置を占める活動である。Pair work や Group work を基本とし、Warm up や Listening Activities で学んだ語彙や表現方法を、自発的な発話で使用させる。ここでは、補助教材として、指導書などを参考に準備されたプリントを使用する。具体的には、主として4つの活動(①トピックに関連した事項に関する、生徒自身の事柄についての質疑、②インフォメーション・ギャップ、③クイズ、④ジグソー・カンバセーション)を使うことで、授業内で自然に英語を用いた言語活動を構成することが期待できる。Unit ごとに、この4種類の speaking activities のうち、どれか2種類

が実施できるようなプリント案が指導書に用意してある。そのため、教科書自体には、単に「Speaking Activities」として会話練習の指示を示すにとどめた。これは、ペアやグループを構成する生徒にはそれぞれ内容が異なるプリントを渡すことで、口頭で英語を使ってコミュニケーションをさせる必然性をもたせるためである。これによって、より現実の言語使用の場面に近い環境で、英語による言語活動を実施することができる。

(4) Grammar One & Two/Exercise One & Two

各 Unit では2つの文法事項を扱い、それぞれに Exercises を設けた。文法は、正しい英語を話したり書いたりするための規則であるにとらえ、必要最小限の項目にとどめた。Exercises (練習問題) は易から難に並べられており、様々な形式の練習問題に触れることで言語材料を定着させることを目指した。最後の問題は自由英作文とし、各ユニットの話題に関連した課題を設定することで、これまで Warm up や Listening & Speaking Activities で学んだ語彙や表現を、receptive な段階から productive な段階に引き上げることを意図した。また、文のつながりを意識しつつ論理的な英文を書くことも目標とした。

(5) Speaking and Writing Activities

各 Unit の学習項目の最終的な「仕上げ」として、ここでは4技能を最大限駆使して Discussion や Presentation などの形で表現(Output)することを目的としている。第一に、Unit の題材に関する情報を正しく読み取り、一定のルールに従って「英語で書く」こと。次に、ペアワークやグループワークを大幅に取り入れ、Conversation と Discussion の違いをふまえながら、対立する意見・共通する意見などを「英語で話し合うこと」。最終的に、それらをまとめて自分の意見を反映させる形で「Presentation を行うこと」。題材は、新聞や雑誌の記事であったりグラフや地図であったり、と多様な形で提示されている。

(6) Clapperboard

実際の英語使用の場면을体験させるために13ある各 Unit の最後に、Function に関連した映画の一場面を抜粋して提示した。映画を鑑賞しながら、生の英語に触れ、外国文化に親しみ、また、生徒たちが同様の場面でどのような表現ができるかを掴み、試行錯誤し、習得することを狙いとしている。映画や出演する俳優や女優に関心を持つことで英語に対し生徒が感じる苦手意識を緩和させる効果も期待できよう。また、ロールプレイなどを通して英語によるコミュニケーションの実際を学ぶことも可能である。

3. Watch & Discuss

各 Unit 以外に、Clapperboard よりも長い範囲で映画の一場面を取り上げて鑑賞し、映画を通して生活・習慣・歴史等の英米文化に触れるとともに、その映画のテーマについて深く考える Watch & Discuss (Movie One & Movie two) を設けた。映画を鑑賞したうえで、感想を書いたり、それぞれのテーマで Discussion を行ったりした後に英語で自分の考えをまとめさせるものである。

2. 対照表

図書の構成・内容		学習指導要領の内容 と代表的な [言語の働きの例]	該当箇所	配当 時数
英語で話したり書いたりしてみよう	会話の進め方、プレゼンテーション、ディスカッション、ディスコースマーカーの基本や、パラグラフの基本、事実と意見を区別して書く方法を学ぶ	2(1)ア・イ・ウ (2)イ・ウ・エ [d.考えや意図を伝える]	6-9 ページ、	1
Unit 1 Introductions and Questions (紹介と質問)	自己紹介をして互いのことを知る * 文の種類・文型	2(1)ア・イ (2)ア・イ [a.コミュニケーションを円滑にする]	10-11 ページ、 13、15-17 ページ	5
Unit 2 Homes and Rooms (家と部屋)	自分の住んでいる場所について伝える * 前置詞(1)・接続詞	2(1)ア・イ (2)ア・イ [c.情報を伝える]	18-19 ページ 21、23-25 ページ	5
Unit 3 Schools and Clubs (学校とクラブ)	学校生活について話し合う * 未来表現・助動詞(1)	2(1)ア・イ (2)ア・イ・エ [d.考えや意図を伝える] [e.相手の行動を促す]	26-27 ページ 29、31-33 ページ	5
Unit 4 Family and Relatives (家族と親類)	家族や親類について伝える * 現在形/過去形/現在進行形/過去進行形・現在完了形	2(1)ア・イ・ウ (2)イ・ウ [c.情報を伝える] [b.気持ちを伝える]	34-35 ページ 37、39-41 ページ	5
Unit 5 Free Time and Frequency (自由時間と過ごし方)	趣味や余暇について伝える * 受動態・不定詞	2(1)ア・イ (2)ア・イ [a.コミュニケーションを円滑にする]	42-43 ページ 45、47-49 ページ	5
Unit 6 Movies and Entertainment (映画と娯楽)	映画やエンターテイメントについて話し合う * 動名詞・分詞	2(1)ア・イ・ウ (2)ア・イ・ウ [b.気持ちを伝える]	52-53 ページ 55、57-59 ページ	5
Unit 7 Food and Drink (食べ物と飲み物)	食べ物や飲み物について話し合う * 形容詞と副詞・比較	2(1)ア・イ (2)イ [d.考えや意図を伝える]	60-61 ページ 63、65-67 ページ	5
Unit 8 Shopping and Restaurants (買い物とレストラン)	買い物をしたりレストランで注文したりする * 関係代名詞・助動詞(2)丁寧表現	2(1)ア・イ (2)ア・イ・エ [d.考えや意図を伝える] [e.相手の行動を促す]	68-69 ページ 71、73-75 ページ	5
Unit 9 Health and Fitness (健康とフィットネス)	健康について話し合う * 過去完了形・助動詞(3)	2(1)ア・イ・ウ (2)イ・ウ [d.考えや意図を伝える]	76-77 ページ 79、81-83 ページ	5

Unit 10 Weather and Climate (天気と気候)	天気や気候について伝える * 仮定法過去・未来に関する仮定法	2(1)ア・イ (2)ア・イ [d.考えや意図を伝える]	84-85 ページ 87、89-91 ページ	5
Unit 11 Sightseeing and Culture (観光と文化)	観光や文化について話し合う * さまざまな使役・関係副詞	2(1)ア・イ・ウ (2)イ・ウ [c.情報を伝える] [e.相手の行動を促す]	94-95 ページ 97、99-101 ページ	5
Unit 12 Destinations and Directions (行き先と方向)	道案内が出来るようにする * 名詞と冠詞・前置詞(2)	2(1)ア・イ (2)ア・イ [c.情報を伝える]	102-103 ページ 105、107-109 ページ	5
Unit 13 Departure and Arrivals (出発と到着)	外国旅行ができるようにする * 話法と時制の一致・仮定法過去完了	2(1)ア・イ (2)ア・イ・エ [d.考えや意図を伝える] [e.相手の行動を促す]	110-111 ページ 113、115-117 ページ	5
<Watch and Discuss> Movie One <i>Hugo</i>	映画の一場面を鑑賞し、設問に答え、ディスカッションを行う	2(1) イ(2)イ・エ [d.考えや意図を伝える] [b.気持ちを伝える]	50-51 ページ	2
<Watch and Discuss> Movie Two <i>I Am Sam</i>	映画の一場面を鑑賞し、設問に答え、ディスカッションを行う	2(1) イ(2)イ・エ [d.考えや意図を伝える] [b.気持ちを伝える]	92-93 ページ	2
Clapperboard	各 Unit の Function に沿った内容の映画の一場面を鑑賞	[a]、[b]、[c]、[d]、[e]	17,25,33,41,49, 59,67,75,83, 91, 101,109,117 の各ページ	0 各 Unit に含む
Appendix 1 Grammar One & Two の例文集	補遺			0
Appendix 2 各 Unit の語彙集	補遺			0
Appendix 3 コミュニケーションのための発音練習	補遺			0
Appendix 3 発音記号分類表	補遺			0
Classroom English	補遺			0
			合計	70